

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年07月21日

計画の名称	折尾駅周辺地区における連続立体交差事業と連携したアクセス道路整備												
計画の期間	平成28年度～平成30年度(3年間)										重点配分対象の該当	○	
交付対象	北九州市												
計画の目標	鉄道連続立体交差事業の進捗に合わせて、JR折尾駅への主要アクセス道路や駅前広場の整備を実施することで、JR折尾駅周辺地域のアクセス機能の強化、快適性や利便性の向上を図る。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	2,030	A	1,779	B	0	C	251	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	12.36	%

計画の成果目標(定量的指標)				
番号	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28		H30末
1	アクセス機能や交通結節機能の強化及び交通渋滞の解消、さらには、北九州市の西部地域の都市拠点として魅力あるまちづくりに向け、鉄道の立体交差化、街路事業の4車線化及び北口駅前広場の整備、土地区画整理事業を一体的にすることで、快適かつ利便性の高い市民生活を確保することが期待される。 駅周辺街路及び駅前広場整備によるJR折尾駅と周辺主要交差点との移動利便性向上を平均旅行速度により表現 一定区間における所要時間/距離	16km/h	km/h	18km/h

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	○	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	H32				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
道路事業	A01-001	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	S街路	改築	日吉台光明線	L=1.5km 駅前広場A=9,800㎡	北九州市八幡西区		■	■			1,007		—	
	A01-002	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	S街路	改築	日吉台光明線	1.5km	北九州市八幡西区	■					761		—	
	A01-003	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	S街路	改築	日吉台光明線(駅前広場)	駅前広場整備 A=9,800㎡	北九州市八幡西区	■					11		—	
												小計						1,779		
												合計						1,779		

C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業	地域	交付	直接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		種別	種別	対象	間接							H28	H29	H30	H31	H32			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	C01-001	道路	一般	北九州市	直接	北九州市	—	—	ホーム上屋等景観整備事業	ホーム上屋約744㎡ 防風スクリーン約190m	北九州市			■			251	1.1	—
		景観性・快適性の向上により、基幹事業の効果をより一層高めることができ、地元住民の期待に応え、シンボル性を高めることができる																	
											小計						251		
											合計						251		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
【実施体制】 北九州市建築都市局折尾総合整備事務所事業調整課が事後評価を実施 【評価値の確認方法】 学識経験者に意見聴取を実施 (九州共立大学経済学部成富教授、九州工業大学工学部寺町准教授)	令和3年度
	公表の方法 北九州市ホームページに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>日吉台光明線において予定していた4車線化が完了していないが、用地買収等に合わせ工事を進めており、着実に事業進捗している。</p> <p>平成30年度末に連続立体交差事業によって、筑豊本線が高架化されたことで、日吉台光明線の踏切が除去されたため、踏切での交通遮断がなくなり、一定程度、移動利便性が向上している。</p>
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<p>車道の共用は行っていないが、部分的ではあるものの、広幅員の歩道整備は着実に進んでおり、駅周辺の歩行快適性が格段に向上している。</p>

○特記事項（今後の方針等）

平成30年度末に連続立体交差事業によって、筑豊本線が高架化されたことで、日吉台光明線（国道199号）の国道踏切が除去されたため指標（数字）として効果発現は見られないが、踏切での交通遮断がなくなり、一定程度、移動利便性が向上している。

また、学識経験者の意見聴取を実施する中で、「事後評価の内容は妥当である、今後も地域との関係を維持しながら着実に事業を進捗させていただきたい」との意見をいただいた。

今後、踏切によって工事ができなかった箇所は拡幅工事を進め、4車線化を行うことで、駅へのアクセスが格段に向上するため、次期整備計画の中で事業進捗を高めていきたい。

また、併せて北口駅前広場やゆとりのある歩道の整備を行うことで、交通結節機能の強化を図るとともに、駅周辺の利便性や快適性の向上を図っていきたい。

(様式第8)

社会資本総合整備計画 参考図面

